

# 令和6年度 伴走支援実施施設成果報告

- 施設名： 特別養護老人ホーム 白光園
- 所在地： 山形県白鷹町
- 定員： 120名



# 1 伴走支援に応募した理由

業務負担を軽減し、職員全員が働きやすい環境をつくりたいという思い、みんなが笑顔でその人らしくいられるように必要な機器を導入して生産性向上の取組活動をしたいという思いから応募した。

## 2 生産性向上委員会設置

① 生産性向上委員会設置・・・ 令和6年4月1日設置

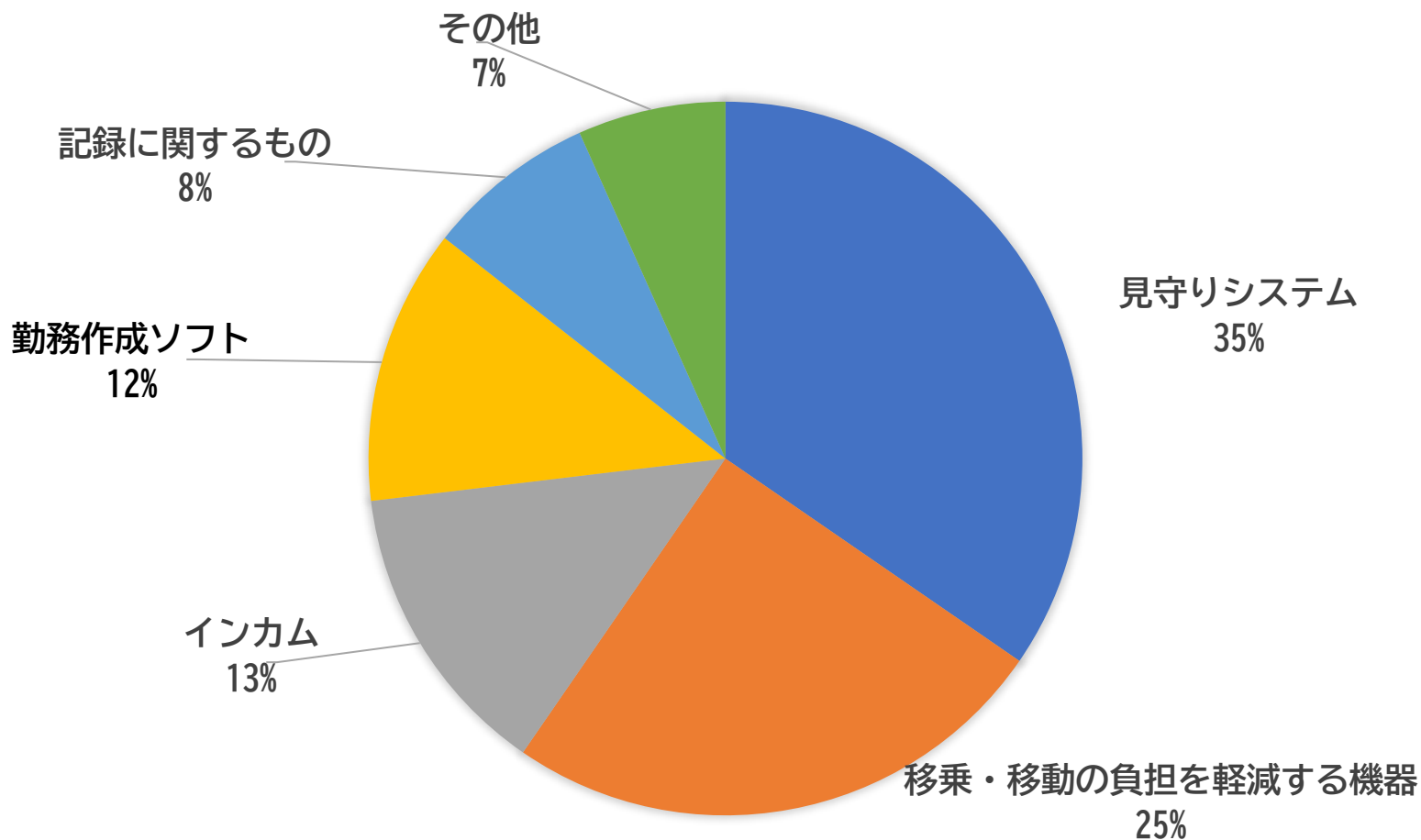
《メンバー構成》

介護課課長補佐1名、介護課係長2名、介護主任2名、介護員3名、  
看護科1名、機能訓練指導係長1名 計 15名

※ センターの伴走支援の際は、園長ほか事務系の職員も参加

## 課題解決のために介護課が導入したい機器をアンケート調査

職員へのアンケート調査から課題抽出し、それに紐づけて業務効率化のために必要な機器、課題解決のために必要な機器の種別を委員会でまとめた。その結果を踏まえて伴走支援でも優先順位をつけて機器の選定から導入、実施と繋げた。



## 3 活動目的

- ① 見守りを充実させること
- ② 入居者の安全と職員の安全
- ③ 職員の身体的負担軽減

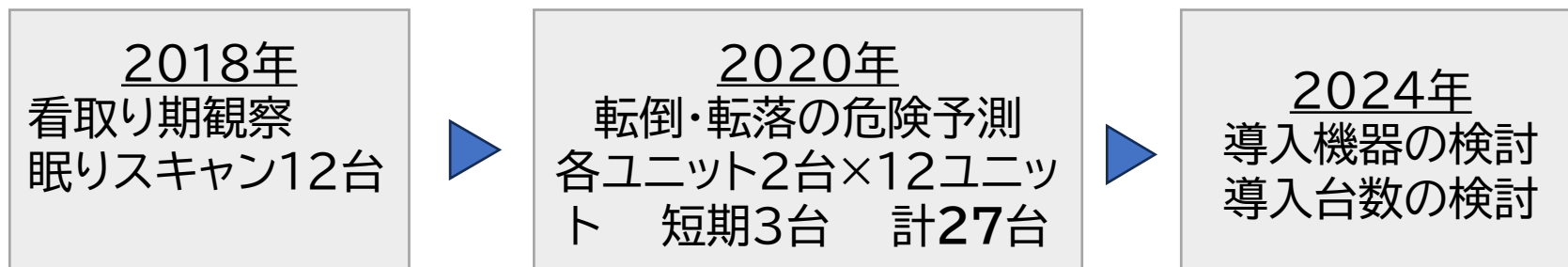
## 4 機器の選定

課題の抽出がなされたあと、委員会が検討した内容をもとに、伴走支援の際にどんな機器がどういう効果をもたらすのかなどを聞いてさらに自分たちは何をどうしたいのかを検討していった。

その結果、もっとも優先したいのは「見守り」であることがわかり、見守り機器の選定を行った。

伴走支援の中でも介護現場の業務の偏りにはバックオフィス業務(勤務作成ソフトの活用、労務管理など)についても業務効率化には必要という意見も出ており、今後の検討事項である。

## 5 見守り機器 選定までの流れ



眠りスキャンはいわゆる「離床センサー」ではないため、即時発報ではなく概ね15秒のタイムラグがある。

この15秒のタイムラグをどう埋めるかを検討し、様々な機器のトライアルを実施した。

その際、機器情報としてはインターネットやセンターから得た情報などを検討してトライアルに進めていき、実際に使ってみてどうだったかを評価していった。

### 《センターからの一言ポイント》

目的を明確にしてから機器の検討⇒トライアルという流れがポイント！好事例の施設で導入している機器が必ずしも自施設に合うとは限らないので試してみることはポイントになります！

## 6 移動・移乗機器の選定

課題の抽出により、職員の身体的負担軽減も優先順位が高かった。委員会が検討した内容をもとに、インターネットや様々な情報により移動・移乗用の機器を選定してトライアルを実施した。今回導入することになったのはHugであり、追加導入で使いやすさの向上に繋がっている。



3人での介助  
3人×10分=30分



1人で介助 ⇒ 15分

## 7 移動・移乗支援の成果

Hugを追加導入し、2台設置することで排泄への支援に対しても効果が出ている。今までオムツ着用者の衣類交換には30分を要していたが、Hugを使用することで排泄時は15分に短縮できている。

また、膝関節を伸ばすことが難しいご利用者に対して、従来は特定の介護員しか介助できなかったが、Hugを導入することで誰もが1人で移乗・移動することが可能になった。

このHugを使い続けることで、自然と膝関節の伸展に繋がり、座位を保てるようになったり、介助者にとっても移乗しやすい状態に変化しているため、当初の想定以外の相乗効果も見受けられた。

今回、Hugを導入するにあたって、設置場所についても検討がなされている。使用目的、使用する対象者、保管(設置)場所など総合的に判断して最も効率よく効果的に介助者が使える位置に配置することで、あっても使わないということがなくなった。これは事前に十分な検討がなされて実証してきた結果であり成果である。

## ハグ設置場所



白光園は建物の構造が平屋で特養とSSと併せて140床、ユニット型であることから非常に広いため、どこにHugを設置するかは生産性向上活動の中でも重要なポイントであった。



## 8 今後について

導入したHugや眠リスキャンなどの介護ロボット・テクノロジーについては、生産性向上委員会だけでなく、身体拘束・虐待防止委員会、事故防止委員会、研修委員会、ユニットリーダーなど関連する他の委員会などとも協力しながら「生産性向上取組活動」を進めていきたい。

今回導入した機器は導入時期が年度後半で十分な成果とまではいかなかったが、すでに現場からの評判も良く前述のとおり効果が出ているので、今後も引き続き効果検証していきたい。

また、当園が考える生産性向上とは以下の2点を目標にしていきたい。

- ① 職員 ⇒ 業務負担を軽減し業務効率を上げること
- ② ご利用者 ⇒ 生活の質を上げること

この両立を目指して、今後は白光園だけでなく法人内全体で生産性向上に取り組んでいきたい。